

第12回 作業療法ジャーナル研究助成・研究経過報告

「心大血管領域における作業療法士の実践と問題点の調査」 研究経過報告



笹井祥充氏

調査を終えて

笹井 祥充

(自治医科大学附属さいたま医療センター、
作業療法士)

2017年度(平成29年度)に「心疾患患者の作業療法に関する実態調査」のため、質問紙の作成から送付・回収、データ処理まで行いました。今回の質問紙調査にご協力いただいた施設責任者ならびにOT責任者の方には、この場をお借りして感謝を申し上げます。

また、質問紙作成にご協力いただいた、群馬県立心臓血管センター 生須義久氏、埼玉医科大学国際医療センター 鈴木真弓氏、訪問看護ステーション花あかり 村井達彦氏、広島大学病院 塩田繁人氏にもこの場を借りて感謝を申し上げます。

質問紙調査の結果は回収率35.7%でした。そのうち心疾患患者に対する作業療法を十分に行えていると回答した施設は2割程度でした。心疾患にかかわれない理由や心疾患に対する教

育的な指導が行われていない理由は、環境、多職種の理解、人材、忙しさの要因が影響する可能性が考えられました。

研究結果は第24回日本心臓リハビリテーション学会学術集会にて一部内容を報告しました。今後は論文化を進めていく予定です。回答された施設で研究結果の概略を希望された方には送付しましたが、希望したのに送付されていない方は ysasai@jichi.ac.jp まで連絡をいただくと幸いです。

今後も心疾患にかかわるOTが有益な臨床を行えるような教育・研究に携わっていただくと考えています。このたびの貴重な機会に感謝し、作業療法の発展に寄与できるよう、今後とも努力して参ります。